

2005.09.12.

フィリピンで“マカピリ”と呼ばれた人々の話  
我々の知らないところで、太平洋戦争に運命を狂わせられた人々の話  
(2005 9-7 NHK BS ドキュメンタリー)

阿部哲夫

太平洋戦争中に、フィリピンに進駐した日本軍は、フィリピンの独立を口実にフィリピン人の戦争協力を募った。

スペイン・アメリカによる植民地政策とか、大地主による収奪的農業政策等に不満を持っていた小作人を主とするフィリピン人達のなかには、この日本軍の勧誘に応じる人々が結構いた。彼等の多くは、日本軍の先兵として、アメリカ軍は勿論、アメリカ軍側についたフィリピン人ゲリラと、日本が負けるまで戦った。

戦後アメリカに加担したフィリピン人ゲリラは、アメリカ軍と一緒に戦った愛国者として、年金も支給されており、頻繁に戦友会のような会合などを開いて旧交を温めたりしている。

一方、日本軍に加担していたフィリピン人達は“マカピリ”と呼ばれ、戦後裏切り者として厳しい迫害を受け、戦犯として裁かれたりして、戦後のフィリピン社会では、日陰者として悲惨な生活を送っている。

戦後60年経って、フィリピンの国立図書館(?)が中心になって、ゲリラとマカピリの双方に呼びかけ、互いが虚心坦懐に話し合っ、二度と同国人が殺し合うことのないようにしよう、と云う双方参加の会合がマニラで持たれた。

第一回の会合では、双方に自分の兄弟、親戚、友人が相手側に殺された、と言うような経験者もいて話は進まず、途中退席者が出るなどして、意思の疎通を図るといふわけには行かなかった。

ところがマカピリの中に、自分は戦争中に人(話の流れからフィリピン人)を殺したことがある、こういう人間を相手はどう思っているのだろうか、自分達が救われることはないのだろうか。自分も老境(多くは80歳台)に入り、間もなく死ぬだろう。こうしたことに解答を得るためにも相手と話したい、と言う人物がおり(Aさん)、またゲリラ側にも、マカピリが何故日本側についたのか知りたい、と言う人物(Bさん)がいて、再度それぞれの仲間同席で少人数の会合を持つことになった。

その会合でBさんから、自分の警察署長だった叔父さんが日本軍に殺され、それが理由で抗日ゲリラに参加したことなどを知らされる。しかしその席上でマカピリは人

殺した、と言われて激怒したらしく、Aさんは、もう話し合っても無駄だ、もう会わないと云い出す。

しかし、数日して冷静になったAさんは、やはり相手と話し合いたいと云って、腹を立てるだけだから止めたら、と勧める仲間の制止を振り切ってBさん達と再び会うことを敢行する。

会った場所は、戦争の最終段階で互いに戦った激戦地だった。そこでAさん達は、食べ物もなく、弾薬も乏しい中で厳しい戦いを戦ったこと等を話した。Bさんの方も、自分達も仲間が二人になるまで戦った、等と話す。

最後には両者の間に、最初には見られなかったような心の交流めいたものを感じられた。

この番組を見て感じたこと：

1. 何回目かの会合で、マカピリの一人が、フィリピンはスペイン・アメリカの植民地時代以来酷い目に遭ってきた。日本軍が来て、フィリピンに独立を与えると云ったとき、これで我々も独立できると感じた。だから日本軍に協力することを決めたのだ、と云っていた。フィリピンは、それまでもアメリカからの独立の空約束に裏切られてきた。これらのことを考えれば、こうした心の動きは、日本側についた側にも、アメリカ側についた側にも共通のものではなかつたらうか。

2. 民主主義国・自由主義国アメリカと云っても、ハワイ、フィリピン等での行動の実態を見ていると、通例の植民地主義国と云われる国々と同じことをやっている。現在アフガン、イラクなどでやっていることも、それとあまり変わりがない。

一方ソ連・ロシア、中国と言った旧共産国も、実際にやっていることは、これと何ら変わらない。

3. Aさんの相手を理解したい、相手に理解して貰いたい、そのためにどうにかして対話をしたい、としつこく努力する辺りに感銘を受けた。案外そう言う人々のお陰で、不可能に見えた対話も復活することがあり得るのではないか。得難い人物と感じた。

4. Aさん、Bさんを見ていると、一回はまり込んだ社会階層が、後々彼等の選択幅に影響を与えていることが感じられる。彼等が実際に選択したことについて責任を問うとき、その点どのように配慮すべきなのだろうか？

Bさんが、自分達はアメリカ式の教育を受けてきたので、英語に親しんでいた、だからアメリカ側に加担したのだ、と言っていた。一方貧しい小作人の子沢山の一家に生まれた Aさんは、英語に対する親近感もなく、むしろ英語を話す階層に対する反感もあったのではないか。これがアメリカと戦う日本に肩入れする気持ちに繋がり、マカピリになった、ということかも知れない。

5. 太平洋戦争の爪痕はここにもこうした形で残っているのか、と言う感じでこの番組を見た。